

かながわ高齢者保健福祉計画(第8期:2021~2023年度) 主要施策評価(自己評価・施策別評価・総合評価)

〈大柱〉	〈中柱〉	〈小柱〉 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
I 安心して元気に暮らせる社会づくり	1 地域包括ケアシステムの深化・推進	<1> 地域包括支援センターの機能強化	8	4	2	2	0	0		○			<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、8割程度の事業が目標を達成又は概ね目標値を達成したとしており、コロナ禍にあっても着実に取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括支援センター職員等養成研修はオンライン開催し、定員充足率は目標の約9割となった。市町村での専門職の不足が課題であり、引き続き取り組みを進めていく必要がある。 ・ 医療と介護の連携の強化については、概ね順調に事業が実施できた。一方で、今後も在宅医療のニーズがさらに増加していくことから地域における保健・医療・福祉の関係機関や団体等の連携を強化し、在宅医療の推進に向けた効果的な取り組みを検討していく必要がある。 ・ 地域での支え合いの推進については、民生委員・児童委員の一人あたり訪問回数は前年度から約3%増加したが、目標は下回った。民生委員・児童委員は地域の身近な相談相手として住民と専門機関をつなぐ役割を担っているため、新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた訪問活動を継続していく必要がある。 ・ NPO・ボランティア等との協働については、ボランティアセンターの設置主体への補助を通じて、ボランティア等の活動の促進に向けた支援を行った。高齢者の社会参加の場として、また、総合事業の多様な生活支援サービスの担い手として、NPOやボランティアの役割は重要であり、引き続き活動環境の整備に取り組む必要がある。 ・ ケアラー(介護者)への支援については、県庁内に設置したケアラー支援庁内連絡会議を会議を開催し、ケアラー支援の方向性等について検討した。また、ケアラー相談事業等の新規事業を開始した。今後も様々な施策を組み合わせ、多様なケアラーの実態に合わせた支援策を講じていく必要がある。 ・ 多様な住まいの確保については、順調に進捗しているが、住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅については、登録戸数の増加に伴い、今後は住宅の登録内容の一層適切な管理に努めていく必要がある。 	
		<2> 医療と介護の連携の強化	15	7	6	2	0	0		○				
		<3> 地域での支え合いの推進	11	2	8	1	0	0		○				
		<4> NPO・ボランティア等との協働	4	0	2	1	0	1		○				
		<5> ケアラー(介護者)への支援	9	2	4	3	0	0	○					
		<6> 多様な住まいの確保	8	4	3	1	0	0	○					
		中柱計	55	19	25	10	0	1	2	4	0	0		
	2 高齢者の尊厳を支える取り組みの推進	<1> 高齢者虐待防止対策の推進	6	1	0	3	1	1			○			<p>■ 個別事業は概ね順調に進捗した一方、計画目標値である、高齢者虐待防止関係職員研修の受講者数・開催回数は新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン開催1回、受講者49名と目標値に届かなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者虐待防止対策の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により集型の開催が困難である中、オンライン研修を1回実施した。また、看護職員研修は、各事業所状況から研修参加は極めて困難と予想したが、感染症対策や権利擁護についてのカリキュラムを重点的に実施するとともに、徹底した感染防止対策や、一部web開催を取り入れたことで、目標値は下回ったものの予想より多くの養成につながった。 ・ 権利擁護のしくみの充実については、町村で市民後見人養成が進んでいないため、市民後見人養成基礎研修の実施により、市民後見人養成に向けた支援を行う必要がある。
		<2> 権利擁護のしくみの充実	7	2	5	0	0	0		○				
		中柱計	13	3	5	3	1	1	0	1	1	0		
	3 認知症の人にやさしい地域づくり	<1> 普及啓発・本人発信支援	9	1	5	1	0	2		○				<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの計画目標である認知症サポート医の養成者数が目標値を達成するなど、コロナ禍にあっても着実に取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普及啓発・本人発信支援については、認知症疾患に係る相談、訪問支援を着実に実施した。 ・ 認知症未病改善については、地域におけるコグニサイズ指導者数の目標は達成した。今後も、これまで養成した講師役のスキルアップ、参加者の定着・継続を支援する取組をさらに強化していく必要がある。 ・ 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援については、計画目標に掲げた認知症サポート医の養成数は、目標値を上回る実績となった。 ・ 認知症バリアフリーの推進・地域支援体制の強化・若年性認知症の人への支援については、計画目標である「チームオレンジ」を設置している市町村数は、目標を上回りました。今後も引き続き、チームオレンジ市町村伴走支援事業により未設置市町村への支援を進めるとともに、設置後の取組活性化を図る必要がある。
		<2> 認知症未病改善	5	4	1	0	0	0	○					
		<3> 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	13	2	8	1	0	2		○				
		<4> 認知症バリアフリーの推進・地域支援体制の強化・若年性認知症の人への支援	25	8	12	1	2	2		○				
中柱計		52	15	26	3	2	6	1	3	0	0			

＜大柱＞	＜中柱＞	＜小柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
4 安全・安心な 地域づくり		＜1＞ 地域における見守り体制 の充実	6	0	4	2	0	0		○			<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの参考指標である、「鉄道や道路、建物がバリアフリー化され、誰もが安心して移動・利用できる、人にやさしいまちになっている」に関する満足度は目標値を概ね達成、計画目標である、災害時における市町村と高齢者施設等との協定も概ね順調に進捗するなど、着実に取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における見守り体制の充実については、地域警察による巡回連絡や通常勤務を通じ、高齢者に対して犯罪被害や交通事故に遭わないための防犯指導、助言等を行っています。依然、特殊詐欺等の被害や交通事故に遭う高齢者が多いため、巡回連絡を継続して防犯指導・助言等を行う必要がある。 ・ バリアフリーの街づくりの推進については、全体的に順調に進捗していますが、幅広歩道の整備延長については、用地の取得を伴うため、関係地権者から理解を得るのに時間がかかるなどの課題がある。 ・ 事故や犯罪被害などの防止については、県内の刑法犯認知件数は平成14年度以降、減少傾向でしたが、令和4年は9年ぶりに増加に転じ、特に高齢者が被害者となりやすい特殊詐欺被害は前年比約43%の増加になる等、高齢者に対する効果的な犯罪被害防止対策を推進する必要があります。固定電話機対策やSNSを活用した特殊詐欺の情報提供等を行うとともに、高齢者等の防犯意識を醸成する機会を継続して提供することが求められている。 ・ 災害時の要配慮者への支援の推進について、計画目標である災害時における市町村と高齢者福祉施設等との協定は目標をわずかに下回った。引き続き、未締結の施設に対して協力を呼び掛けていく必要がある。
		＜2＞ バリアフリーの街づくりの 推進	7	3	4	0	0	0		○			
		＜3＞ 事故や犯罪被害などの 防止	14	3	9	1	1	0		○			
		＜4＞ 災害時の要配慮者への 支援の推進	4	1	2	1	0	0		○			
		＜5＞ 感染症に対する備え	4	0	4	0	0	0		○			
		中柱計	35	7	23	4	1	0	0	5	0	0	
大柱計			155	44	79	20	4	8	3	13	1	0	
II いきいきと暮 らすしくみづく り	1 未病改善の 取組の推進	＜1＞ 地域の多様な主体による 「介護予防事業」の推進	8	4	2	2	0	0		○		<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの着実に取り組みを進め、参考指標である、第1号被保険者のうち、要介護2以上の者の割合は計画値どおりとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の多様な主体による「介護予防事業」の推進については、市町村介護予防事業支援のための人材育成事業研修参加者数は目標を下回った。今後、周知方法や期間を含め、介護予防市町村支援事業を進めていく必要がある。 ・ 健康寿命の延伸に向けた未病改善等の取組については、オンラインによる研修等の実施、動画配信による講義など工夫して実施しているが、事業運営をさらに充実させていく必要がある。 ・ 歯及び口腔の健康づくりの推進と口腔ケアの充実については、引き続き、保健、医療、福祉等の関係者との連携強化に向けた取組や、介護者等への口腔ケアの重要性や方法を普及していく必要があります。 <p>■ 計画目標である「シニア・ジョブスタイル・かながわ」でキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率は目標値をわずかに下回った。参考指標である「好きかも！を見つけよう」のページビュー数は、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の開催が見送られたことから、目標値を下回った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域共生社会の実現に向けた活動への支援については、若手高齢者や未加入高齢者に老人クラブ活動に関心を持ってもらえるよう、積極的な情報発信を行うなど、加入促進を図る必要がある。 ・ シニア・ジョブスタイル・かながわでキャリアカウンセリングを利用した者の就職等進路決定率は目標値をわずかに下回った。また、離職者等委託訓練事業はR3から中高年優先枠を廃止したものの、45歳以上の割合は減少しておらず、定員充足率は80%であったことから、おおむね順調に推移している。 <p>■ 共生共創事業の公演等の参加者数及び高齢者のスポーツ等の交流大会である、かながわシニアスポーツフェスタの参加者数は参加者数の目標を大幅に上回り、着実に取り組みを進めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共生共創事業については、コロナ禍という制約の中で、高齢者や障がい者等が出演する演劇やダンス作品を動画配信することで多くの方の視聴につながった。また、かながわシニアスポーツフェスタは、コロナの影響により、31種目のうち7種目が中止となったが、目標値の4,000人に対し、11,373人が参加し、大幅に目標を上回った。 ・ 第34回全国健康福祉祭(ねんりんピック)神奈川・横浜・川崎・相模原大会においては、31種目を開催し、全国から1400チーム、選手・監督計10,270名が参加するなど、高齢者の生きがいづくり、健康づくりに寄与しました。 	
		＜2＞ 健康寿命の延伸に向け た未病改善等の取組	26	13	7	5	1	0		○			
		中柱計	34	17	9	7	1	0	1	1	0		0
	2 社会参画の 推進	＜1＞ 地域共生社会の実現に 向けた活動への支援	9	2	3	1	1	2		○			
		＜2＞ 就業に対する支援	3	0	3	0	0	0		○			
		中柱計	12	2	6	1	1	2	0	2	0		0
	3 生涯学習・生 涯スポーツの 推進	＜1＞ 生涯学習・生涯スポー ツへの支援	9	4	5	0	0	0		○			
		＜2＞ 活動・交流の場の提供	2	0	1	1	0	0		○			
		中柱計	11	4	6	1	0	0	1	1	0		0
	大柱計			57	23	21	9	2	2	2	4		0

＜大柱＞	＜中柱＞	＜小柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)	
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D		
Ⅲ 介護保険 サービス等の 適切な提供と その基盤づく	1 介護保険 サービス等の 適切な提供	＜1＞ 介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営	3	3	0	0	0	0	○					<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、介護保険サービスの適切な提供と円滑な運営に努めるとともに、介護保険審査会の開催や低所得者対策などを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所開設予定者を対象とした開設者向け説明会や、介護サービス調査事業の訪問調査が中止となった。研修等についてはオンライン開催した。
		＜2＞ 安心して介護保険サービス等を利用できるしくみの充実	12	7	5	0	0	0	○					
		中柱計	15	10	5	0	0	0	2	0	0	0		
	2 人材の養成、 確保と資質の 向上	＜1＞ 保健・医療・福祉の人材の養成	11	5	5	1	0	0	○					<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業の実施に制限があったものの、感染症対策を講じるなどの工夫により、介護人材の養成を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保健・医療・福祉の人材の養成については、介護職員、看護師等の養成を着実に進めた。 ・ 保健・医療・福祉の人材の確保・定着対策の充実については、介護人材の確保・定着に関し、かながわ福祉人材センターにおいて新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、就職相談会やキャリア支援専門員によるきめ細やかな相談対応、就労支援などを行った。 ・ 保健・医療・福祉の人材の資質の向上については、新型コロナウイルス感染症の影響により実地研修受入れ病院、施設の減少、参加者の減少、研修の中止などにより進捗が遅れがあった。一方、一部の研修をオンラインで実施するなど、コロナ禍にあっても取組みを進めた。
		＜2＞ 保健・医療・福祉の人材の確保・定着対策の充実	24	12	5	2	2	3		○				
		＜3＞ 保健・医療・福祉の人材の資質の向上	13	4	4	4	1	0		○				
		中柱計	48	21	14	7	3	3	1	2	0	0		
	3 サービス提供 基盤の整備	＜1＞ 介護保険施設等の整備	8	3	4	1	0	0		○				<p>■ 計画目標である、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等の整備計画はコロナ禍にあっても取組みを進め、概ね順調に進捗するなど、サービス提供基盤の整備を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険施設等の整備について、特別養護老人ホーム等を概ね計画どおり順調に整備した。 ・ 介護サービス事業所における災害や感染症に対する対応力の強化については、高齢者福祉施設等職員に対しオンラインで感染症対策に関する研修等を実施するとともに、社会福祉施設等応援職員派遣支援事業により、新型コロナウイルス感染症が発生した民間社会福祉施設等に対し、応援職員を円滑に派遣することで施設の機能維持を図ることができた。
		＜2＞ 施設におけるサービスの質の向上	9	3	4	2	0	0		○				
		＜3＞ 介護サービス事業所における災害や感染症に対する対応力の強化	7	3	2	0	1	1		○				
		中柱計	24	9	10	3	1	1	0	3	0	0		
	4 介護現場の 革新	＜1＞ 介護ロボット・ICTを活用した介護職員の負担軽減	7	1	5	1	0	0		○				<p>■ 参考指標である生活支援ロボットの導入施設数が目標値を上回るなど、着実に取組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボット・ICTを活用した介護職員の負担軽減については、介護ロボット公開事業所の見学者数、介護ロボット導入支援補助台数とも目標値を下回った。 また、生活支援ロボットについては、新型コロナウイルス感染症対策をした上で、「ロボット体験施設」の運営及び「生活支援ロボットのモニター制度」に取り組み、ロボットを身近に感じ、具体的なイメージ・有効性を感じてもらい、導入につながる一定の効果を果たした。 ・ エビデンスに基づく介護サービス提供による介護の質の向上については、公募型ロボット実証実験支援事業の応募件数をどう増やしていくかが今後の課題である。 ・ デジタル化等による業務効率化の推進については、各種支援金、補助金の交付申請等を電子化するなどの取組みを進めた。
		＜2＞ エビデンスに基づく介護サービス提供による介護の質の向上	2	0	1	1	0	0		○				
		＜3＞ デジタル化等による業務効率化の推進	1	0	1	0	0	0		○				
		中柱計	10	1	7	2	0	0	0	3	0	0		
大柱計			97	41	36	12	4	4	3	8	0	0		

＜大柱＞	＜中柱＞	＜小柱＞ 主要施策	事業 本数	自己評価					施策別評価				総合評価(案)
				a	b	c	d	休止 等	A	B	C	D	
Ⅳ 市町村が行う 取組の支援 施策及び目 標値	1 自立支援・重 度化防止の 取組の支援	＜1＞ データを活用した地域分 析支援	1	0	1	0	0	0		○			<p>■ 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業で進捗に遅れがみられたものの、介護予防市町村支援委員会の開催など着実に取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ データを活用した地域分析支援について、計画目標である市町村職員を対象とした地域分析に係る研修会は、オンライン形式により圏域別を実施し、市町村職員のスキルアップを図った。 ・ 自立支援・重度化防止の支援について、計画目標である介護予防市町村支援委員会の開催数は目標どおり開催した。住民主体の通いの場等で活動するボランティア・専門職向け研修の修了者数は目標値を下回った。 ・ 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組支援について、地域包括支援センター職員等養成研修をオンライン開催し、定員充足率は目標の約9割でした。在宅医療施策推進事業は、今後、在宅医療のニーズがさらに増加していくことから、在宅医療の推進に向けた効果的な取組を検討する必要があります。
		＜2＞ 自立支援・重度化防止の 支援	2	1	0	1	0	0			○		
		地域包括ケアシステムの ＜3＞ 深化・推進に向けた取組 支援	4	1	2	1	0	0		○			
		中柱計	7	2	3	2	0	0	0	2	1	0	
	2 介護保険 給付適正化 の取組への 支援	＜1＞ 介護保険給付適正化の 取組への支援	3	1	1	1	0	0		○			
		中柱計	3	1	1	1	0	0	0	1	0	0	
	大柱計			10	3	4	3	0	0	3	1	0	
合 計			319	111	140	44	10	14	8	28	2	0	